■令和７年度　福岡市高速鉄道事業会計決算の概要

１　概　況

⑴　総括事項

本市の高速鉄道事業は、昭和56年７月26日に空港線（１号線）室見～天神間で営業を開始して以来、順次部分開業を続け、平成５年３月３日の空港線博多～福岡空港間の開業により、空港線と箱崎線（２号線）の全区間が開業しました。また、平成17年２月３日に西南部地域における慢性的な交通渋滞の緩和等のため七隈線（３号線）橋本～天神南間が開業、令和５年３月27日には天神南～博多間が開業し、空港線、箱崎線と七隈線を合わせて31.4㎞で営業しております。

以下、概況について説明します。

①　業務実績

当年度の利用者数は、年間輸送人員204,818,279人（１日平均561,146人）で、前年度に比べて13,477,760人（7.0％）増加しております。内訳は、定期の利用者が96,141,900人（１日平均263,402人）で、前年度に比べ7,047,840人（7.9％）増加しており、定期外の利用者が108,676,379人（１日平均297,744人）で、同じく6,429,920人（6.3％）増加しております。また、乗車料収入（消費税抜き）は360億9,631万円で、前年度に比べて22億3,635万円（6.6％）の増となっております。

増客増収の取組みとして、地下鉄を利用した周遊イベントや沿線施設と連携したイベントの実施など、沿線の魅力や地下鉄の利便性のＰＲを積極的に推進するとともに、広告の販売促進やお客様ニーズに対応した新規店舗の誘致及び既存店舗区画の事業者公募など駅空間の有効活用、収益向上に取り組みました。

②　建設改良等

施設や車両等の安全性を確保するため、電気室設備の更新、1000Ｎ系車両の更新及び土木構造物の改良工事等を実施しました。

また、快適で質の高いサービスを提供するため、車両優先スペースの改修や地下駅の全館冷房化等に取り組みました。

③　財政状況

当年度の決算につきましては、損益計算書等に記載しておりますように、総収益434億8,030万円に対し、総費用は339億4,258万円で、差引95億3,772万円の純利益が生じました。

この結果、当年度末における累積欠損金は815億337万円となっております。

以上、令和７年度の概況について報告しましたが、今後とも、「福岡市地下鉄長期ビジョン」に定めた経営理念のもと、安全・安心を最優先に、経営基盤の強化と質の高いサービスの提供に努めてまいります。

⑵　経営指標に関する事項

令和７年度における経営成績につきまして、経営の健全性を示す経常収支比率は、労務単価上昇に伴う経費の増などにより、前年度比1.00ポイント減の127.34％となりましたが、健全経営であるとされる100％以上となっております。

また、独立採算性を示す他会計負担比率は、企業債の支払利息に応じて補助される特別債補助金が減少したことなどにより、前年度比0.36ポイント減の3.11％となり、他会計への依存度は低下傾向にあります。

一方、有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す有形固定資産減価償却率は、経年による減価償却の進捗により、前年度比0.40ポイント増の56.76％となりました。既存施設等の経年劣化が進行しておりますが、引き続き、アセットマネジメントによる計画的な施設等の更新に取り組んでまいります。

＜経営指標の推移＞

	R3	R4	R5	R6	R7
経常収支比率	100.22%	112.52%	127.13%	128.34%	127.34%
他会計負担比率	6.49%	4.61%	3.94%	3.47%	3.11%
有形固定資産減価償却率	57.96%	54.32%	55.64%	56.36%	56.76%